

自由研究発表

メッカ・パスの変遷にみる巡礼の制度化

Mecca pas or how to regulate the Hajj

吉田 信 (南山大学)

YOSHIDA Makoto (Nanzan University)

本報告では、オランダ領東インド（以下蘭印）においてメッカ巡礼に際して導入されたメッカ・パス（巡礼用旅券）の変遷をたどることから、植民地権力による巡礼の管理・制度化の過程を検討する。

近年、帝国の影響下での巡礼の変遷・制度化を検討する研究がみられるようになってきている(Motadel: 2016)。植民地権力の浸透にともない展開していった航路整備、検疫、領事館開設、監視など研究の対象は多岐にわたる。なかでも Eric Tagliacozzo (2013), あるいは Michael Christopher Low による研究(2020)は代表的なものといえよう。

しかしながらメッカ巡礼の研究においてメッカ・パスに焦点を当てた研究は意外に少ない。Low の研究(2020)には、'Passports and Tickets'と題する章が割かれているものの、その内容はトーマス・クックによる英領インドでの巡礼のパッケージ化をめぐる展開が主であり、メッカ・パスについては検討されていない。他方、蘭印については國谷による先駆的な研究が存在しているものの(國谷: 2004, 2008)、対象とする時期が限定的でありメッカ・パスの全体像については検討の余地が残る。

本報告は、國谷による研究を継承・発展させつつ、メッカ・パスを通時的に検討することにより、様式の変遷からうかがえる巡礼制度化の特徴について指摘したい。

参考文献

國谷徹. 「19世紀末の蘭領東インドからのメッカ巡礼について—巡礼パスポート制度の展開過程を中心に—」『日蘭学会会誌』29(1), 15-28, 2004.

國谷徹. 「東南アジアからのメッカ巡礼と植民地支配」『自然と文化そしてことば』(4), 34-41, 2008.

Low, Michael Christopher. *Imperial Mecca: Ottoman Arabia and the Indian Ocean Hajj*. New York: Columbia University Press, 2020.

Motadel, David ed. *Islam and the European Empire*, Oxford: Oxford University Press, 2016.

Tagliacozzo, Eric. *The Longest Journey: Southeast Asians and the Pilgrimage to Mecca*. Oxford: Oxford University Press, 2013.